令和５年８月７日　　予察情報５－７

病害虫防除技術情報　第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

ツマジロクサヨトウ幼虫の初確認と対策

１　情報の内容

県東部の飼料用とうもろこしほ場において、ツマジロクサヨトウと疑われる食害痕と鱗翅目幼虫が確認された。８月３日に羽化した成虫の形態的特徴から、ツマジロクサヨトウであることを確認した。

本県では、令和２年６月 25 日に成虫は確認されているが、本種幼虫の寄生が確認されたのは初めてである。

発生量が多くなると被害が拡大する可能性があるので、以下を参考に防除対策に努める。

２　寄主植物

（１）本種は、アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ）、マメ科（ダイズ等）など広範囲な作物を加害することが報告されている。

（２）国内では、飼料用とうもろこしをはじめ、スイートコーン、ソルガム等のイネ科作物で発生が確認されている。

３　防除対策

（１）飼料用とうもろこしをはじめ、スイートコーン、ソルガムおよびハトムギ等のほ場を見回り、国の「ツマジロクサヨトウ及びとうもろこしでみられる主なチョウ目幼虫の各齢期における主な特徴並びに識別法」を参考（右 QR ｺｰﾄﾞで読み込み可能）に、幼虫の早期発見に努める。

（２）本種を確認後、直ちに薬剤散布を実施する。

（３）幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに作物残さを耕耘する。

（４）農薬の散布にあたっては、登録内容を確認し、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬の使用時期、使用回数等の基準を厳守する。

（５）国の「「ツマジロクサヨトウ」防除マニュアル本編（第２版）」も参考に願います。

４　その他

（１）本種は暖地を除く地域では越冬することはできない。

（２）本種の疑いがある幼虫を発見した場合は、速やかに病理昆虫課まで連絡する。

５　防除薬剤　（参考）

飼料用とうもろこし（子実）

薬剤名 （成分名）	使用 方法	使用時期	散布液量	希釈倍率	本剤の 使用回数
トレボン乳剤 （エトフェンプロックス乳剤）	散布	収穫７日前まで	100～ 300L/10a	1000 倍	４回以内
パダンＳＧ水溶剤 （カルタップ水溶剤）	散布	収穫 21 日前まで	100～ 300L/10a	1000～1500 倍	２回以内
チューレックス顆粒水和剤 ジャックポット顆粒水和剤 （ＢＴ水和剤）	散布	発生初期　但し、 収穫前日まで	100～ 300L/10a	500～1000 倍	－
デルフィン顆粒水和剤 （ＢＴ水和剤）	散布	発生初期　但し、 収穫前日まで	100～ 300L/10a	500 倍	－
プレバソン （クロラントラニリプロール水和剤）	散布	収穫前日	100～ 300L/10a	2000 倍	３回以内
	無人航空機による散布		1～2L/10a	20 倍	

未成熟とうもろこし

薬剤名 （成分名）	使用 方法	使用時期	散布液量	希釈倍率	本剤の 使用回数
トレボン乳剤 （エトフェンプロックス乳剤）	散布	収穫７日前まで	100～ 300L/10a	1000 倍	４回以内
パダンＳＧ水溶剤 （カルタップ水溶剤）	散布	収穫 21 日前まで	100～ 300L/10a	1000～1500 倍	２回以内
コテツフロアブル （クロルフェナピル水和剤）	散布	収穫前日まで	100～ 300L/10a	2000 倍	２回以内
アファーム乳剤 （エマメクチン安息香酸塩乳剤）	散布	収穫３日前まで	100～ 300L/10a	1000～2000 倍	２回以内
プレバソンフロアブル （クロラントラニリプロール水和剤）	散布	収穫前日	100～ 300L/10a	2000 倍	３回以内
	無人航空機による散布		1～2L/10a	20 倍	
ヨーバルフロアブル （テトラニリプロール水和剤）	散布	収穫前日	100～ 300L/10a	5000 倍	３回以内
	無人航空機による散布		1.6L/10a	50 倍	

ソルガム

薬剤名 （成分名）	使用 方法	使用時期	散布液量	希釈倍率	本剤の 使用回数
オルトラン水和剤 （アセフェート水和剤）	散布	収穫 30 日前まで	100～ 300L/10a	1000 倍	３回以内

連絡先　農業研究所　病理昆虫課
TEL (076)429-5249 FAX (076)429-7974